

令和5年度第5回藤沢市立学校適正規模・適正配置検討委員会  
会議録

期日：2024年1月9日（火）14時00分～14時40分

場所：藤沢市役所本庁舎3階 3-3会議室（オンライン会議）

出席者（敬称略）

【検討委員】

渡邊 泰典  
藤井 佳世  
稲垣 景子  
新海 政雄  
神原 勇人  
平井 護  
越 美紀  
河内 幸恵  
坪谷 麻貴  
澤野 美奈子

【検討部会員】

峯 浩太郎 教育部長  
近 尚昭 教育部参事  
加藤 財英 教育総務課 参事

【事務局】

浅野 智一 教育総務課 主幹  
安西 美知代 教育総務課 課長補佐  
根本 慎太郎 教育総務課 主査  
時田 裕美 教育総務課

【傍聴者】3人

藤沢市立学校適正規模・適正配置検討委員会から教育長へ答申

（教育総務課 加藤参事）

これより、藤沢市立学校適正規模・適正配置検討委員会渡邊委員長から岩本教育長  
に対しまして、「藤沢市立学校適正規模・適正配置第1期実施計画の策定について」  
答申いただきます。渡邊委員長、よろしくお願いいたします。

（渡邊委員長）

藤沢市教育委員会教育長 岩本 将宏 様

藤沢市立学校適正規模・適正配置検討委員会 委員長 渡邊 泰典

藤沢市立学校適正規模・適正配置第1期実施計画の策定について（答申）

2022年（令和4年）5月30日付で諮問がありました「藤沢市立学校適正規模・適正配置実施計画の策定について」、当検討委員会において、教育における様々な分野からの委員により検討を重ね、藤沢市立学校適正規模・適正配置第1期実施計画を別添のとおり取りまとめましたので答申します。

なお、本計画の実行により、市立学校適正規模・適正配置に向けた取組を推進させ、子どもたちの教育環境の改善に取り組まれることを期待します。

～写真撮影～

（教育総務課 加藤参事）

ありがとうございました。 続きまして、岩本教育長からお言葉があります。  
岩本教育長、よろしく申し上げます。

（岩本教育長）

藤沢市立学校適正規模・適正配置第1期実施計画の策定にあたり、2022年5月に諮問をさせていただきました。10回にわたる熱心な議論をしていただいたと聞いております。本日はこのように第1期実施計画を取りまとめていただきましたことに感謝申し上げます。

教育委員会としては、本日お受けいたしましたこの答申内容をもとに、3月の教育委員会定例会において第1期実施計画の策定をさせていただきたいと思っております。今後の市立学校適正規模・適正配置の取組を推進させ、子どもたちにとってより良い教育環境の充実のために取り組んでいきたいと考えております。

第1期実施計画は将来に向けて取り組みを始めていますが、思いのほか市内の子どもたちの増加や、35人学級が追い打ちをかけまして、その波が足元に来ています。一日も早く進めていきたいと思っております。

検討委員の皆様におかれましては、藤沢市立学校適正規模・適正配置の取り組みとは別に、藤沢市の学校教育のためにご尽力いただきただければありがたいと思っております。

今年は1月から能登半島地震、航空機事故等があったスタートとなりましたが、今年1年が皆様にとりまして、健康で充実した1年になりますように祈念申し上げます。本日は、どうもありがとうございました。

（加藤参事）

岩本教育長ありがとうございました。

以上で藤沢市立学校適正規模・適正配置第1期実施計画についての答申を終了します。

## 第5回藤沢市立学校適正規模・適正配置検討委員会

(渡邊委員長)

第5回藤沢市立学校適正規模・適正配置検討委員会を開催します。

### 議題(1) 令和5年度第4回藤沢市立学校適正規模・適正配置検討委員会会議録の最終確認及び確定

(渡邊委員長)

議題(1) 令和5年度第4回藤沢市立学校適正規模・適正配置検討委員会の会議録の最終確認及び確定を議事とします。事務局より説明をお願いします。

(教育総務課 浅野主幹)

資料1 第4回検討委員会会議録(案) 参照

第4回藤沢市立学校適正規模・適正配置検討委員会会議録の確認をお願いします。事務局からの説明は以上です。

(渡邊委員長)

会議録の内容について修正等ございますか。

(なし)

修正等がないので会議録については記載されている内容で了承します。

## 2 その他

(渡邊委員長)

議題2 その他についてを議事とします。事務局より説明をお願いします。

(教育総務課 浅野主幹)

渡邊委員長より答申いただき、第5回の検討委員会をもって藤沢市立学校適正規模・適正配置検討委員会については終了となります。

スケジュールについては改めてお知らせします。

本日は各検討委員の皆様からご挨拶をいただきたいと思います。

(平井委員)

今回は適正規模・適正配置検討委員として出席し、本日答申が終わり、第1期実施計画がスタートすることができることとなりました。社会福祉協議会としては、13地区の地域づくりを進め、地域の方々がより絆を深めるということでは小学校区がより重要だと思っています。これを機会に、学区の見直しや学校設備が議論されていくのですが、地域の方が顔を合わせる機会もあると思うので、これをチャンスと捉えてより地域づくりを進めていく視点も社会福祉協議会としては重要だと思っています。

能登半島地震でも学校へ避難されている方の報道等を見ると、地域で互いに寄り添

って、支え合って避難生活をされています。そのときには学校区のエリアの中で顔が見える関係ができてることが非常に重要であるし、日頃の生活の中から、そういった環境が整うことが大切だと思っています。藤沢の場合、学校の適正規模・適正配置でその視点も含めて、社会福祉協議会としては後押しをしていきたいと思っています。

子どもたちがより良い環境で、勉学に励むことができるように祈っています。

(神原委員)

渡邊委員長はじめ、委員の皆様お疲れさまでした。事務局についても資料をまとめていただきご苦労様でした。

いよいよ第1期実施計画がスタートします。日本全国では少子化が進む社会において、藤沢市は人口増、児童生徒数増となっていて、学校の適正規模・適正配置の検討をし、過大規模解消のため第1期実施計画が作られたと思っています。この先は人口減少が加速することが藤沢市でも想定される中で、小規模校の課題をどう解決するか合意形成が必要になると考えられ、第1期がスタートしたばかりではあるが、先を見据えた検討が必要だと考えられます。特に学校については地域のランドマークとして、地域のコミュニティの核となる存在だと思うので地域の合意形成、児童生徒の教育環境のためにさらに検討を進めていただきたいと思います。

(越委員)

この適正規模・適正配置検討委員会に参加させていただき、たくさんの方が子どもたちの学校生活や環境整備のために時間を費やしていることがわかりました。様々な立場の方がいることから、それぞれの立場で思考に違いがあることが感じられました。

私が藤沢市の子どもたちのためにつながる会の副代表として活動するきっかけとなったのは、PTAの役員になったことからでした。1回だけ役員をやって終わるつもりで参加しましたが、PTA会長になったことにより青少協などに関わり、市の会議に参加するなどし、子どものために参加したことが今では自分のためになって日々勉強になっています。まずはたくさんの方がPTAから参加していただいて、これだけ地域や藤沢市が子どもたちのために活動していることを一人でも多くの保護者に体験してほしいと実感しています。我が子だけではなく、学校単位で学校を愛してほしい、そこから地域を愛し、藤沢市全体を我が子として広い目で熱く関わっていただけたら教育現場ももっと明るくなるのではと思っています。引き続き藤沢市の子どもたちのために活動していくのでこれからもよろしくお願いします。

(新海委員)

学校が統合されたあとは、社会体育振興協議会も一つにまとまらなければならないので、その場合は次の委員にがんばってもらいたいと思っています。学校の問題もありますが地域の高齢化の問題があり、地域を担ってくれる方が出てこない現状です。統合されたことをプラスにしてマンパワーが多くなり、社会体育振興協議会のあり方

も変わっていかねばいけないと思っています。藤沢市は高齢者率が高いので、健康である体づくりを基本に、社会体育振興協議会をやっていかねばいけません。子どもたちはもちろん大事だが、お年寄りが元気であることが、藤沢の市政に対しても大きな影響を与えるのではないかと考えているので、これから先、統合に関して意見がありましたらより良い状況を作っていただけたらと思います。どうもありがとうございました。

(河内委員)

事務局の皆様、委員の皆様どうもありがとうございました。

駒寄小学校は全部の学年が3クラス、ほぼ30人学級の学校規模で、改めて適正な人数で学校経営ができてとても幸せだと思いました。ただ駒寄小学校はだんだん人数が減ってくる学校なので、こういったことが将来的に理想的だったと思うのだろうと感じました。この藤沢市全体を見て適正規模・適正配置を考えることはとても難しいことだと改めて思いました。大変勉強させていただきましてありがとうございました。

(坪谷委員)

委員の皆様、事務局の皆様ありがとうございました。学校が抱えている教育課題が複雑化、多様化し、教員の働き方改革がある中で、地域との連携の重要性を感じています。地域とともにある学校づくりを積極的に推進しようとするほど地域の方とどのように連携していくべきか、市民センター、公民館を中心とした13地区、小学校区の関係での難しさを実感しています。辻堂地区の適正規模・適正配置の課題、通学区域を今後見直していくにあたって、その地域性を生かしてどのような創意工夫ある学校づくりを推進していくのかを、まず学校は地域の皆様としっかりと連携しながら考えて、それをいかに皆様に理解していただいて協力し合っていくか、いかに発信していくかが重要だと思いました。それによって、どこにある学校ではなくてどんな学校なのか、今まで以上に創意工夫ある学校づくりを考えていかねばいけないと感じました。実施計画を答申させていただいて、これから具体的な取り組みをしていき、具体的な課題がみえてきますが、学校として勉強しながら一緒にがんばっていかねばならないと思っています。ありがとうございました。

(澤野委員)

委員の皆様、事務局の皆様ありがとうございました。

白浜養護学校はこの会議とは別枠で対応していただくということで、参加していません。本校へは藤沢市全体から通ってきており、人口増減に即していなくて、どの地区からどのくらいの児童生徒が増えるかわからない状況です。開校当初は70人規模を想定して造られた学校ですが、現在は倍以上の154人の児童生徒が通学しています。特別支援校のニーズが高まっていて、10年前は100人ほどでしたが1.5倍に増えています。小中高の3学部あり、学部ごとで運営していますが、一つの学校として学部

の域を超えた交流等もしてきています。場合によっては今の校舎にすべての学部が入りきらないのではないかという切羽詰まったところまでできていて、今後は辻堂ではなく別のところで学ぶことも考えていかなければいけない状況となっています。それでも特別支援へのニーズが高まってきていて、それに答えたい教職員の思いもあるので、できることをやっていくところです。

藤沢市は人口が増えていて、特別支援を必要とする児童生徒も年々増加していることをお伝えしたいと思います。今後は教育委員会の力を借りて、適切な学びを引き続き考えていきたいと思っています。

(稲垣委員)

藤沢市では都市計画審議会に参加している関係でこちらの検討委員会にも参加させていただくことになりました。

人口が増えている珍しい自治体で、子育て世代が魅力を感じている地域と言えるのかもしれないと感じています。ぜひその魅力を生かしつつ、その将来を担う子どもたちが育つ場、そして地域コミュニティの拠点としての小学校というものを改めて考える私にとってもいい機会になりましたし、ぜひこの検討委員会で議論されたことが、次のまちづくり、学校づくり、子どもの育ちや教育に繋がっていくことを期待しています。

私の専門が都市防災ということもありまして、学校を地域の避難拠点や、防災の避難場所として捉えることが平常時は多いのですが、そういう多面的な機能を期待されている重責ではありますが、非常に重要な場所でもありますので、ぜひ今後藤沢市の学校適正規模・適正配置というものがなされるための議論がいろいろな人たちと一緒に進められていくことを期待しています。今回関わらせていただきましてどうもありがとうございました。

(藤井委員)

委員の皆様方、事務局の皆様方本当にどうもありがとうございました。

私の専門が教育学で、公立の学校はその地域の中で育ってきたという側面が、ずっと長い歴史の中でもあるように理解しています。そうした観点から考えると、今回の適正規模・適正配置の検討というのは、一つの歴史的な場所にも立っているのではないかと感じた次第です。というのはやはり地域とともに学校があることを維持しながらも、どのようにそれを作り直していくのかという視点も必要だったのではないかと思います。そう捉えていくと、この会議は私にとっても非常に勉強になる機会でしたし、様々な方々のご意見を伺うことで、学校というものがどういう構成によって作られているのかについて、改めて考える機会となりました。

学校教育としての教育をきちんと維持しながら、地域の皆様方と一緒に学校を作っていくという観点が重要ではないかと考えますので、そうした意味で関わる人たちが、一緒になって作っていけるような方向でこれからも進んでいただけると非常

にいいと考えています。どうもありがとうございました。

(渡邊委員長)

委員の皆様どうもありがとうございました。

先ほど答申の際にお話ありましたが 2022 年の 5 月に諮問をいただきまして、それからおよそ 2 年弱でようやく本日、答申にまでたどり着くことができました。この間、委員の皆さんと事務局のご尽力、ご努力にまずは感謝申し上げたいと思います。

私がこちらに関わるようになったのは教育の専門性はほとんど関係ないのですが、藤井委員と一緒に教育委員会でお仕事をしていたこともあり、そのご縁で適正規模・適正配置検討委員会の委員となりました。

全国的に少子化が進む中で、藤沢市はまだまだ子どもが増え続けているということで、教室が足りない、学校が狭いという現場の苦労はもちろんあるのですが、この増えていく子どもたちに対して、どのようにしたらよりよい教育を提供できるだろうかという前向きに議論をすることができたことは我々にとっても非常に幸運だったのではないかと今考えています。

ただ今回答申にたどりついて、まずは学区の見直しを中心に過大規模を解消していくことになったわけですが、神原委員からもお話ありましたが、ゆくゆくは少子化が待っている中で、これは最終解決というわけではありませんし、地区の協議会で実際にこれから学校に通う子どもたち、保護者の皆様、具体的な現実、一つ一つの問題に直面していくのはまだまだこれからということになりますので、我々は一旦終了ということで今後は立場が様々に異なることとは思いますが、地区の協議会での具体的な学区づくり、それから第 1 期実施計画が終わった後の第 2 期実施計画以降の計画を含め、引き続きこちらに関わった皆様のご協力をお願いしたいと思います。私自身もせっかくのご縁ですので引き続き、自分で考えられるところは自分の問題として考えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

まずはこの 2 年間皆様どうもありがとうございました。

以上で本日の審議の日程は全て終了ということになります。これをもちまして、第 5 回藤沢市立学校適正規模・適正配置検討委員会を終了いたします。皆様どうもありがとうございました。

それではここからは事務局に進行をお願いします。

(教育総務課 浅野主幹)

事務局を代表して峯部長からご挨拶させていただきます。

(教育部 峯部長)

適正規模・適正配置検討委員会委員の皆様には 2022 年 5 月から本日まで、藤沢市立学校適正規模・適正配置に関わる基本方針と、実施計画の策定にお力添えをいただ

きましたことに深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

この間、地域関係団体、保護者、そして学識経験者として、それぞれの立場から建設的なご意見、そしてときには事務局に耳の痛いご意見をいただきながら、本日実施計画を取りまとめていただきました。

振り返りますと、私どもの資料の作り込み、委員の皆様から資料の見せ方のご意見、伝え方に配慮が必要、内容に具体性を持たせるべきとか、将来人口推計には今季はトレンドや将来を見据えて算定すべきなどの的確なアドバイスをいただけたことにより、軌道修正を行ったものは数知れません。その中でも象徴的だったのが、議会への報告が遅れたとしても、コロナによる人口増の影響を加味した将来人口推計をもって資料を作成すべきであるということや、通学区域の見直しについて地区別協議会の意見をまとめるだけではなく関連して隣接する協議会同士の話し合いが必要であるなどのご意見から通学区域検討委員会の立ち上げ、そしてワークショップ形式での広く意見を吸い上げる手法に変更したということからも、今後この事業を進めていく上で大変重要な決定をいただいたと認識しております。改めて感謝を申し上げるところでございます。

先ほど答申をいただきました第1期実施計画は次の2月市議会に報告し、3月の教育委員会定例会に諮り決定する運びとなります。

そしていよいよ新年度から通学区域の見直し作業が始まります。これまで経験したことのない取り組みとなりますので、数々の困難が想定されますが、藤沢の子どもたちのために改革を進めてまいりますので、委員の皆様には、動向を見守り、そして不測の事態の際にはお力添えを賜りますことをお願い申し上げましてお礼の言葉とさせていただきます。

約3年間の長きに渡りまして本当にありがとうございました。

(教育総務課 浅野主幹)

この後は議会を通して、教育委員会定例会で策定する流れです。任期は実施計画策定の日までと検討委員会設置要綱に明記されていますので、今しばらく策定まで見守っていただければと思っております。

私も2年間、委員の皆様とお仕事することができて、非常に勉強になりました。基本方針の策定から3年間という長い期間関わっていただいている委員の皆様、本当にありがとうございました。いただいたご意見をしっかり反映して、今後初めて藤沢市が始める取り組みで、子どもたちの教育環境をしっかりと整備できるよう進めます。

以上で第5回藤沢市立学校適正規模・適正配置検討委員会を終了します。

種田教育委員 傍聴

以 上